

* ピースウィンズ・ショップから *

アイスコーヒーが美味しい季節になりました

この間まで涼しかった気候もだんだん暖かくなり、夏の気配が感じられるようになってきました。PWJショップでは、そんな暑い時期でもコーヒーを楽しんでもいただけるコーヒーを販売しています。

「有機水出し東ティモールピースコーヒー」は、寝る前に水に漬けておくと、翌朝には本格的なすっきりしたアイスコーヒーができてという簡単・便利な一品。また、深煎りの焙煎豆(500g)で作るアイスコーヒーも、水出しコーヒーとは一味違った味わいを楽しめてオススメです。

ジメジメとした初夏の季節をすっきりしたアイスコーヒーで元気に乗り切ってください!

皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

お中元・サマーギフトもおまかせください

ピースウィンズ・ショップでは、お中元などのギフトシーズンに合わせて、フェアトレードコーヒーのギフトを始め、クッキーとコーヒーのセット、オーガニックタオルなどの各種ギフトも販売しています。

チラシの完成までもう少し!今しばらくお待ち下さい。尚、まとまった数量のお中元、引き出物、引越越し、内祝いなどのギフトは通年受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。



ご注文は、<http://www.peace-winds.org/shop/>

ご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5213-4073まで。
※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。



支援のプロを
世界の現場へ

支援地レポート

中国

2013年4月20日に中国四川省で発生した地震に対応し、パートナー団体である米国NGOのMercy Corpsと中国の中国扶貧基金を通じて、被災者支援を開始しました。被災地ではまだ水道が使えず、衛生状況が悪化していることから、約700世帯を対象に石けんやシャンプー、下着などの衛生用品を配布します。



Photo: Liu Liangchuan/Mercy Corps

東北

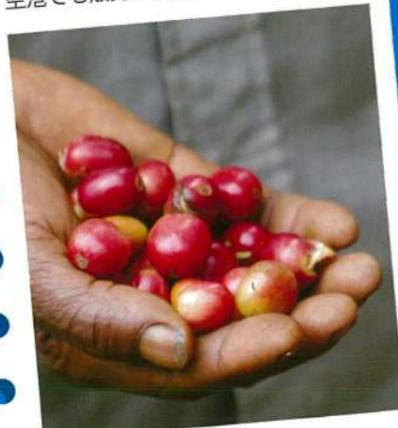


防寒着を受け取った事業者のみなさん

南三陸町志津川地区で再建された牡蠣の処理施設では、収穫時期である10月~5月は特に寒さの厳しい期間となり、むき身の作業も厳寒の中で行われます。そこで、PWJは防風フェンスの設置および事業者35世帯に対して防寒具など備品の提供を行いました。

東ティモール

2003年から始まったコーヒー生産者支援は11年目を迎えています。今年も豊作を見込むコーヒーの収穫シーズンが間近に迫っています。東ティモール国内でも販売されているピースコーヒーは、2013年5月、ティリ国際空港でも販売を開始しました。



赤く熟したコーヒーの実



ハルクとハンドラー藤崎



蒜山での登山訓練

たくさんの観客の前でもハルクは落ち着いていた。ハンドラー藤崎啓の指示で、3つの木箱のなかから人が隠れた箱を嗅覚で捜し当て、ワンワンと吠えて知らせる。無駄のない動きに、観客から大きな拍手が起こった。

ハルクはピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が育成中の災害救助犬。4月14日、広島県神石高原町で運営するドッグランの開設2周年イベントで、ボックストレーニングと呼ばれる訓練を披露した。普段の訓練では、がれきや山林の中での捜索など、より高度で実践的な科目もこなすようになった。

被災者の救出活動を担うスタッフも成長している。4月は岡山・鳥取県境の蒜山^{ひるぎん}で、体力づくりを兼ねた登山訓練に挑んだ。尾根から尾根へ、5時間を超える縦走は、災害現場で人の命を救うことの厳しさを実感させた。

同じ4月、淡路島やイラン、中国四川省で地震が相次いだ。いつあるか知れない出動に備え、全員が緊張感をもって鍛錬を重ねている。★特集は裏面に続く

災害支援への 備えを加速

— 広島・レスキューチームの挑戦と成長 —

広がる国内での活動 —災害対応訓練に加え、地域復興の取り組みも—

●ヘリからの降下訓練も

PWJが災害救助犬の育成を始めたのは2010年秋。殺処分される直前に県の動物愛護センターから譲り受けた夢之丞も、ハルクらとともに訓練を受けています。最初は人におびえ、訓練どころではなかった夢之丞も、ハンドラーの遠隔指示に従って的確に動けるまでに成長しました。この活動は寄付のほか、昨年秋からスイスのJTI財団の助成を受けており、コンクリートなどがれきを配置した訓練施設づくりも進められています。レスキュー要員の訓練も2年目に入りました。機械・器具の操作や応急手当などの技術面に加え、現場での約束ごとや心がまえを学び、意識も高まっています。昨年暮れには、陸路でのアクセスが難しい現場にヘリコプターで入ることを想定し、ロープを使ったヘリからの降下も経験しました。この春から新人2人が加わり、今後は近隣の消防との合同訓練などにも取り組む予定です。



降下訓練の様子



ハンドラーの指示を待つ夢之丞

レスキューチームのメンバー

●観光振興で過疎地に活力

捜索・救助チームの訓練の舞台である神石高原町は、豊かな自然を残す半面、過疎化と高齢化が進んでいます。そんな地域に活力をもたらそうと、PWJは地元のみなさんと一緒に、観光客や移住者の増加につながるイベント、施策づくりに取り組んでいます。その一例が、ご当地グルメのイベントとして定着した「神石高原マルシェ」。町内産の野菜や米などの食材を使った創作料理の屋台に、毎回多くの人々が訪れています。



神石高原マルシェブースへ出展

●犬の殺処分ゼロをめざして

新しい活動として、全国で年間約5万頭にのぼる犬の殺処分ゼロをめざした取り組みも始めました。町と連携し、4月までに捨て犬など60頭を保護、うち25頭を元の飼い主に返還したり、新しい飼い主に譲渡したりしました。動物愛護の意識の啓発とともに、雇用の創出などを通じて地域の活性化にも役立ちたいと考えています。

※PWJは、救助犬の育成、ドッグランの運営、捨て犬の保護・譲渡など犬に関係した活動を「ピースワンコ・ジャパン」と総称し、専用のウェブサイトを作りました。ぜひご覧ください。



<http://peace-wanko.jp/>



春を迎えたPWJドッグラン

まちづくりのパートナーとして期待

PWJが神石高原町で活動を始めてから、若いスタッフが何人も町内に移り住み、地域に新しい風が吹き始めています。当初は「国際的なNGOがなぜこんな山の中に？」と不思議に思いましたが、現在は広い人脈やノウハウを持ち、行政の立場ではやりにくいことにも積極的に取り組んでくれるので、まちづくりのパートナーとして非常に頼もしい存在です。

救助犬やレスキューチームの活動にも期待しており、神石高原町が世界の被災地支援の起点になるよう、町もできる限りの後押しをしたいと思います。

神石高原町まちづくり推進課 課長 入江嘉則様



お知らせ 専門性を活かしたプロボノ支援を受け入れ

2012年11月より4か月間、デロイト トーマツ コンサルティング株式会社からコンサルタント5名のプロボノ支援を受け入れ、本業である経営コンサルティング業務を活かして、PWJのファンドレイズ施策の策定に携わっていただきました。

「支援活動の更なる充実のため、より多くの方々にご支援いただきたい、との想いを受け、ファンドレイズ施策策定のお手伝いをさせていただきました。新しい挑戦も少なからずあったと思いますが、支援者の皆様と支援を必要としている人々との架け橋を務めることに対するスタッフの皆様の熱意に支えられ、無事にプロジェクトを完了できました。今回策定した施策が、今後の支援活動の一助となればこんなに嬉しいことはありません。PWJ様の更なる活躍を心より願っております。(デロイト トーマツ コンサルティング株式会社 コンサルタント 田中舞さん)」



デロイト 田中舞さん(左)、PWJ 松倉(中央)、PWJ 中村さん(右)

PWJのHPがリニューアル



2013年4月より、PWJのHPがリニューアルしました。従来のデザインを一新し、みなさまに支援の内容や現地の状況をよりわかりやすくお伝えするウェブサイト生まれ変わりました。

<http://peace-winds.org/>

- 3/5 日経Bizアカデミー「ヤング・グローバル・リーダーに聞く」に、代表理事 大西のインタビューが掲載
- 雑誌「国際開発ジャーナル3月号」に、南スーダン駐在のPWJ田中が紹介
- 3/20 三陸新報にPWJの東北支援事業「ふるさと学習会」が掲載
- 4/12 朝日新聞に、PWJの福島第一原発事故 被災者移住受け入れ計画が掲載
- 4/21 三陸新報にPWJの東北写真展が掲載

メディア掲載報告

支援の現場から —イラクより—

私は2013年1月から3月初旬までイラクに駐在し、シリア難民支援のサポートに携わりました。PWJが事務所を構えるイラク・アルビルのカフェやレストランなどで働くウェ이터の中にも、現在多くのシリア難民がいます。

※クルド地方では、自治政府がシリア難民に対して就労許可を出しています。私がイラクに滞在中、レストランで働くモハメッドさんという若者と話をする機会がありました。彼はダマスカス出身の20歳で、アレppoの大学では法律を勉強していたとのこと。はつらつとした働き者の若者でした。

アルビルでは日本人は珍しいようで、私自身の仕事の話やドミズ難民キャンプでのPWJが行う事業の話をする、彼自身も以前生活していたドミズ難民キャンプがどうなっているのかと、現在の様子に関する質問を受けました。また、彼の背景についても話をしてくれました。家族をシリア国内に残してきていること、難民キャンプを出た後にアルビルでは狭い部屋を一室借りて、6人のシリア難民の若者たちと生活していること、せっかく入った大学で、いつ勉強を再開できるかわからない不安など。

国外へ避難している彼のような若者が、また国へ戻って勉強を再開できる日は来るのだろうか、ふと彼の今後について複雑な気持ちになりました。

アルビルでは、彼のような働き者のシリア難民の若者を多く見かけます。

現在、PWJはドホークで雇用支援プログラムを始めています。地元の行政や企業のニーズをヒアリングし、難民一人ひとりの能力や希望に合った仕事をマッチングさせています。モハメッドさんのような若者たちを、それぞれのスキルを活かした雇用につなげることを目指しています。深川啓



難民キャンプでのPWJ 深川

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641
加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等(東日本大震災の場合はその旨を)を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付
銀行名：三井住友銀行 青山支店
口座番号：普通 1671932
口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付
銀行名：三井住友銀行 桜新町支店
口座番号：普通 6723184
口座名義：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などにご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。